

## 留学生支援サポート「Restaurant IBARAKI」「Tea Ceremony」

### イベントの背景

「コロナ禍で留学生が孤立しがちなのでIYEOの活動に参加できる機会はないか」海外の留学生の受入れを行っている一般財団法人日本国際協力センター(JICE)から留学生が在籍している都道府県青年国際交流機構 (IYEO) に声がかかりました。対象となるのは日本政府の無償資金協力事業 (\*人材育成奨学計画:JDS) により招へいされた留学生で、コロナ禍でも日本に在住している方がいます。茨城県では筑波大学にアジアを中心として様々な国からの留学生が在籍していますが、留学が既に1年以上経過している学生もいる中で、日本文化に触れる機会がほぼなく、日本の学生との交流もあまりない様子でした。また、国費留学生は修士課程や博士課程の取得のために来日しており、語学習得が目的ではありません。そのため、日常生活では来日後に勉強を始めた日本語か、ジェスチャーでコミュニケーションをとっているそうです。

茨城県IYEOでこの活動の運営メンバーを募集したところ、6名の県内外の会員が集まりました。また、活動を進めるうちに2人加わり、現在は8人でIYEO自主活動サポート助成金制度(チャレンジファンド)の支援を受け、活動しています。

サポートを始める前に、まず留学生に現状のヒアリングを行いました。外に出る機会が少ないこと、日本人の友達がほほいないこと、研究室には日本人学生がほほいないことなどの現状を聞くことができました。また、茨城県IYEOで開催するイベントにはオンライン、対面を問わず参加したいという意見が上がりました。

\*人材育成奨学計画:JDS

[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/grant\\_aid/summary/JDS.html](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/grant_aid/summary/JDS.html)



緊急事態宣言下では対面のイベント開催が難しいと判断したため、オンラインのイベントを開催しました。イベントの名称Restaurant IBARAKIは、毎週水曜日のDinner timeと日曜日のLunch timeに開催することに由来しています。イベントではZoomを使用し、運営メンバーが自分のことを紹介したり、留学生が自国を紹介したりする発表や、家にあるお気に入りの物を紹介するコーナーを設けていました。特に人気だったのはブラウザから参加できるオンラインゲームです。言語に頼らず楽しめるゲームだったため、英語が苦手な参加者にも楽しんでいただけました。

イベントには留学生だけでなく、日本人の大学生や海外の青年にもご参加いただきました。留学生とIYEOの繋がりができただけでなく、日本人学生が英語に触れる機会の提供にもなりました。



### Tea Ceremony

緊急事態宣言が解除されたことを受けて日本の文化の一つである茶道の体験イベントを開催しました。つくば市の茶道体験教室にご協力いただき、留学生7名の参加がありました。茶道の先生から日本の文化や思考と茶道の繋がりについて説明を受け、実際にお茶とお菓子を頂きました。留学生にとっては慣れない畳の上での正座でしたが、先生の話に興味を持ったようで多くの質問が上がりました。参加者からは良い体験になったという声が多く聞かれ、留学生が日本文化に触れる機会を提供することができました。



# 青少年国際交流事業事後活動推進大会 (全国大会熊本大会／山形大会)

## ■令和2年度 全国大会熊本大会

令和2年12月5日(土)、web会議システムを利用して、青少年国際交事業事後活動推進大会、日本青年国際交流機構第36回全国大会が開催されました。「私たちそれぞれの365歩のマーチ ～熊本から未来へ、そして世界へ～」というテーマで、137名がオンラインでの大会に参加しました。

基調講演は「熊本生まれ、世界育ち。～7坪8席で創業した味千ラーメンの挑戦～」というタイトルで、味千拉麺チェーン本部重光産業株式会社 代表取締役副社長の重光悦枝氏によって行われました。昭和43年、7坪8席の小さなラーメン店からスタートした味千ラーメンは、現在、国内外におよそ850店舗を展開。平成19年11月には、アメリカの経済誌『ビジネスウィーク』が毎年発表する「アジア成長企業ランキング」で、「味千ラーメン」の中国フランチャイズ企業である味千中国ホールディングスがトップ企業に選ばれました。現在では、中国だけでなく、東南アジアの国々や、北米、オーストラリアでもチェーン展開。熊本の味、のれん、伝統というものを大切にしつつ、固定観念に固執しない味づくりにも挑戦し、常に新しい発想をもって世界へと広がっています。

人と人とのつながりを大切にし、創業者の「世界中にラーメン大好き人間を創りたい」という思いを繋ぎ、地方都市、熊本に根付くつつ、グローバルな視点を持って挑み続ける味千ラーメンの取組や理念をお聞きし、参加者はそれぞれの活動において、困難を乗り越え羽ばたくヒントを得ることができました。

基調講演後は、趣向を凝らした六つの分科会、帰国報告会等が実施され、事後活動を更に充実させるための方策について考える機会となりました。



## ■令和3年度 全国大会山形大会

令和3年9月19日(日)、web会議システムを利用して、青少年国際交事業事後活動推進大会、日本青年国際交流機構第37回全国大会が開催されました。「なせばなる 時けばなる 懐かしい未来に 志の種を蒔こう ～Grow Glow Globe～」というテーマで、193名が参加しました。

基調講演では、国内外で活躍のイタリアンレストラン「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフである奥田政行氏による「八方ふさがりからの未来論」と題するお話を聴講しました。奥田シェフの波乱万丈の人生に驚きつつも、生まれ育った土地や人々へ必ず恩返しするという生き方に感銘を受けました。自分が関わる人とその人の努力を大切にしていくことによって豊かな未来を築けることを学びました。

その後の「震災10年振り返り」では岩手県IYEO会長の高橋直幸氏と北海道・東北ブロック幹事の伊勢みゆき氏の活動報告を聞きました。未曾有の事態から復興活動を始め、未来の防災に至るまで体験に基づく非常に示唆に富んだお話でした。最後のワークショップは、オンライン上で初めて会う仲間と話し合っ、メニューを作るという参加型のプログラムで



オンラインで基調講演をする奥田政行シェフ



講演者の奥田政行シェフと山形大会実行委員のメンバー

した。オンライン上での資料共有や作成など、オンライン開催の可能性を大きく広げる企画で、若手の山形県実行委員の活躍が光っていました。

コロナ禍のなか、オンラインという条件のもとではありましたが、地域の魅力に触れたり、社会貢献活動への新たなアイデアを得たりするなど、参加者にとって大変充実した大会となりました。

# 【IYEOの活動】 青少年国際交流を考える集い（ブロックイベント）

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の参加者や国際交流に関心のある方々が、事後活動の情報交換、地域、職場等における事後活動の促進について話し合うことを目的に、全国8ブロックに分かれてブロックイベントを開催し、近隣都道府県の連携を図っています。

## ■北信越ブロック（新潟県開催）

日時	令和3年10月17日（日）13時30分～17時
会場	オンライン（Zoom） MOYO Re:（実行委員） 新潟県新潟市中央区花園1丁目1-21 CoCoLo南館 1F
テーマ	<b>つながる ～Connect to the Future ME 未来のじぶん～</b> 新潟で世界との様々なつながりをつくり、活動している人との交流を通して、参加者に自身の未来について考え、今後の活動・挑戦のきっかけを得てもらう場を設けた。
参加者数	51名



## ■東海ブロック（三重県開催）

日時	令和3年12月12日（日）11時～15時30分（13時～14時 昼休憩）
会場	オンライン（Zoom）
テーマ	<b>「えらいときやけど、今の自分を知って、未来を描こに!!」</b> <b>～自分も周りも輝き育つ、心と体のエクササイズ～</b> 当イベントを通じて、参加者同士がつながり、自己理解と仲間への共感を深め手を取り合うことで、明るい未来を描けるようにすることをねらった。
参加者数	50名



## ■近畿ブロック（滋賀県開催）

日時	令和3年11月7日（日）13時～17時30分
会場	オンライン（Zoom）
テーマ	<b>「Luck is What Happens When Preparation Meets Opportunity</b> <b>～ピンチをチャンスに～」</b> 県内で活躍または滋賀県にゆかりのある方々をお招きし、様々な思いを抱えた方々に対して苦しい状況下でもそれを乗り越えるための解決策を模索するための機会になることを目指した。
参加者数	38名



## ■四国ブロック（高知県開催）

日時	令和3年8月21日（土）10時20分～16時55分
会場	オンライン（Zoom）
テーマ	<b>「青少年参加型の青少年国際交流及び青少年育成活動の創造と実現に求められる</b> <b>リーダーシップ・組織マネジメント・交流プログラム」</b> 青少年参加型の国際交流活動を行う地域の青少年国際交流団体やIYEO会員が直面しているボランティア組織のリーダーシップやマネジメント、青少年が求める交流コンテンツについて学ぶ機会とした。
参加者数	75名



## ■九州ブロック（佐賀県開催）

日時	令和3年10月30日（土）13時30分～18時45分
会場	オンライン（Zoom）
テーマ	<b>「LEAVE NO ONE BEHIND～だれひとり取り残さない～SAGA: Sustainable Action,</b> <b>Glocal Aspiration～佐賀のグローバルアクション～」</b> 佐賀県でグローバルに活動されている方々の事例を通して、一人一人が、それぞれの立ち位置でできることを考えていく一つのきっかけとした。
参加者数	49名





### あなたは、仕事以外で、何か社会に貢献したいと思ったことはありますか？

内閣府青年国際交流事業に参加して、その経験を何か社会に活かしたい。でも、今の仕事とはあまり関係ないし、自分一人でするようなことじゃない。そんなとき、IYEOでは、ボランティア活動を通して、仲間を作ってあなたのやりたい活動が実現できるかもしれません。

IYEOの持つ全国・海外の会員ネットワークで、都道府県や参加事業の枠を超えて、IYEOが貢献できる未来は何か？それを議論するために、2021年、「IYEO未来創造会議」が創設されました。

### IYEOのより良い未来を考えるきっかけづくりをする会議が「IYEO未来創造会議」です。

2021年3月に始まった「IYEO未来創造会議2021」には、熱意あふれる若手会員36名が集まりました。IYEO自体や各種スキルの学習から始まり、5月にはIYEO全体で取り組みたい5つの未来創造テーマが生まれました。そして、2021年8月、2025年という未来に向けてIYEO活動のあるべき姿を提言する「IYEO未来創造計画2025」を作り上げました。

**IYEO未来創造計画2025を作成するに当たって**  
**2021年1月、未来のIYEO運営を担う若手会員を募集したところ、日本の各地域・海外から36名が集まりました。**

所属ブロック別内訳	
所属ブロック	人数
北海道・東北	2名
関東	14名
北信越	3名
東海	3名
近畿	3名
中国	4名
四国	1名
九州	4名
海外	2名
計	36名

出身事業別内訳	
出身事業	人数
東南アジア青年の船	12名
世界青年の船	10名
国際青年育成	7名
日中親善交流	1名
日韓親善交流	1名
地域コアリーダー	4名
一般会員	1名
計	36名

出典：未来創造計画2025 p5

**IYEOがどんな組織・活動の場であってほしいか？**  
**36名の若手の意見から、IYEO全体で取り組みたい5つの未来創造テーマが生まれました。**

- ①「えがおの輪」  
IYEO全体で、地域の外国につながる人々と共にみんな違って当たり前という新しい価値を作りたい！
- ②「個性がキラリ☆」  
IYEO全体で、地域の日本人の異文化理解・国際理解促進の場を作りたい！
- ③「地域発信」  
IYEO全体で、各地域の魅力や良さを発信・発信する場を作りたい！
- ④「納得のColorful ドリンクバー♡」  
IYEO全体で、世代を超えた教育・成長の場を作りたい！
- ⑤「活動基盤」  
IYEO全体で、今後のプロジェクトを生み、支える基盤を作りたい！

出典：未来創造計画2025 p8

全国から集まった未来創造会議2021メンバー

未来創造会議2021から生まれた活動テーマ

## 未来創造会議の進め方

未来創造会議は事前学習から段階（フェーズ）を追って進めました。

### ① 事前学習フェーズ(3/6～4/30)

- あなたはどんな未来を創りたいか？ ○そのためにIYEOをどうしたいか？
- 「ボランティア」とは何か？ ○「ボランティアだから楽しく」とは何か？
- ロジックモデル「どんな活動をすれば未来に近づくか？」
- あなたがリーダーとして大切にするもの ○あなたがメンバーとして大切にするもの

### ② 未来構想フェーズ (5/1～5/28)

- 事前学習の振り返り・発表会
- 未来構想テーマ決め
- ニーズとシーズの洗い出し・ロジックモデル

### ③ 課題整理フェーズ (5/29～6/25)

- 先進事例、課題のヒアリング、ロジックモデルの更新 ○課題整理、SWOT分析など

### ④ 計画立案フェーズ (6/26～7/24)

- 未来創造計画2025（アクションプラン）作成着手 ○IYEO役員との意見交換

### ⑤ 活動総括フェーズ (7/25～8/9)

- ガントチャート着手 ○IYEO全国推進会議報告(7/31) ○未来創造計画2025完成

## 少しずつ変わり始めた未来

未来創造計画2025で提言した「IYEOで実現したい未来」への第1歩が既に始まっています。

<始まった新たな活動例（2021年12月現在）>

- ・ JICAと連携した、留学生を支援する行政官との交流イベント（笑顔の輪プロジェクト）
- ・ 内閣府事業参加青年向け「段階的人材育成」（異文化理解プロジェクトなど）
- ・ 地域の魅力に気づこう！「大人の社会科見学」（地域のいいところみつけプロジェクト）
- ・ IYEO版人生ゲーム～内閣府事業が最高のキャリア教育～（キャリア教育プロジェクト）
- ・ ボランティア活動リクルート・広報イベント「IYEO Volunteer Fair」（活動基盤プロジェクトなど）
- ・ 若手によるIYEO活動解説動画・SNS発信（未来創造会議2021インフルエンサーズ）

※詳細や最新情報は、未来創造会議ウェブサイトや未来創造計画をご覧ください。



未来創造会議ウェブサイト

## IYEOでなら、あなたのペースで、少しずつ社会に貢献できるかもしれない。

未来創造会議の活動・運営がきっかけで、未来創造計画2025完成から4か月後の2021年12月、IYEOの全国47都道府県の役員が集まる全国推進会議で、IYEOの活動に、都道府県軸、出身事業軸に加えて第3の軸「社会貢献軸」を組織として新たに設けることが決定しました。

また、内閣府の各青年国際交流事業の事前研修・事後研修と連携し、内閣府事業に参加する青年に、事業参加中から「事業終了後にこの経験をどう社会還元していくか」を考えてもらう、「段階的人材育成」の取組を未来創造会議メンバーが始めました。

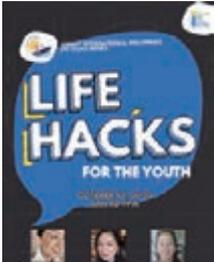
IYEOは参加する側も運営する側もボランティア。一般法人や企業ほど一度のインパクトは大きくないかもしれませんが、型にはまらない分、気持ちと仲間次第で、未来を少しずつ変えることができます。

未来創造会議はまだ始まったばかりの取組ですが、新設の「社会貢献軸」組織と共に、IYEO事後活動の新たな地平を開いていく予定です。

# 【国際的な活動】 SSEAYP インターナショナル (SI) 各国の活動

「東南アジア青年の船」事業 (SSEAYP) に参加した参加青年は、東南アジア各国及び日本において事後活動組織を作り、各国において各種の国際交流活動及び青少年健全育成活動等に寄与しています。各国の事後活動組織の国際ネットワークとして、SSEAYPインターナショナル (SI) が1987年に設立され、日本青年国際交流機構とブルネイ・カンボジア・インドネシア・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・シンガポール・タイの事後活動組織、及び準会員であるラオス・ベトナムの事後活動組織により構成されています。

## 「東南アジア青年の船」事業各国事後活動組織の主な活動 (2020年)

国名	主な活動内容	
ブルネイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年3月、「マレーシア未来リーダー・グループ」の参加者に対して、ブルネイ国内でのホームステイをアレンジ。また、ブルネイの食や伝統衣装などの紹介プレゼンテーションを実施。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、空港やモスクなど、人手の必要な施設でのボランティア活動に参加。また、自宅待機中の方や高齢者に対して飲食物や生活必需品を届けるボランティア活動に参加。</li> </ul>	
カンボジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年、コンボンスプー州ピンポン小学校に、「SSEAYPインターナショナル・カンボジア図書館」を建設。(詳細はp.20を参照)</li> <li>新型コロナウイルス感染症のワクチン購入のためのファンドレイジング活動を行い、カンボジア政府に対してUSD4,000を寄付。</li> </ul>	
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年4～6月、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、遠隔地域の陽性者に飲食物を届け、医療従事者にマスクなどの必要物資を届ける活動を実施。物資の寄付を募るため、インドネシア全国各地の既参加青年のリユニオンや、バーチャル・ツアー (海外ツアー及び国内ツアー) をオンラインで開催。</li> <li>2020年8月、「ASEAN Day」 (8月8日) 及びインドネシア独立記念日 (8月17日) を記念したキャンペーンとして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐための「SSEAYPマスク」を作成し、インドネシア全国各地及び海外へ配布。</li> <li>2020年9月、社会貢献活動を行う既参加青年を資金面で支援するための「SIAGA (SSEAYPインドネシア既参加青年助成金制度)」の第2フェーズの募集を開始。</li> </ul>	
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年2月14～18日、北海道IYEO主催のスタディツアーを、クアラルンプールで受入れ。</li> <li>2020年3月、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、マレーシア青年協議会 (MYC) と共同で、クアラルンプールのホームレスや、警察官など最前線で働く人々に飲食物を届ける活動を実施。</li> <li>マレーシア人道支援団体 (MHM) と共同で、サラワク州ミリの学校に、水道施設を建設。</li> </ul>	
ミャンマー	<ul style="list-style-type: none"> <li>第46回参加青年発案の事後活動プロジェクトとして、少年院を訪問し、寄付金を手渡すと共に、出院後も夢を持ち続けて社会参加できるようなワークショップを実施。</li> </ul>	
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年10月10日、オンライン・ウェビナー「青少年のためのライフ・ハック」を開催。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、特にメンタル・ヘルスにどう対応するか、オンライン教育・ストレス軽減・動物セラピーなどをテーマに、それぞれの分野の専門家である既参加青年3名が講師として登壇。</li> </ul>	

国名	主な活動内容
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年10月7日、「SSEAYP Day」を記念して、オンライン・ヌードル・パーティを開催。シンガポール以外の既参加青年4名を含む、計42名が参加し、SSEAYPクイズなどを楽しみ、また、SSEAYPカップ・ヌードルTシャツを作成し、販売。</li> </ul>
タイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年2月29日～3月1日、第46回参加青年発案の事後活動プロジェクト「一つの学校に一つの製品」をトラン県にて実施し、60名の高校生を対象に、起業家精神に関するワークショップ（オンライン・マーケティング、デザイン思考、資産管理、プレゼンテーション・スキルなど）を実施。</li> </ul>
ラオス	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年10月、バドミントン・トーナメントを開催し、55名の既参加青年が参加。</li> <li>ラオス政府（ラオス人民革命青年同盟）が主催する「子ども・若者フェスティバル2020」で、既参加青年がSSEAYPの写真や動画などを紹介するブースを設営。</li> </ul> 
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年2月、旧正月（テト）中に、第46回参加青年発案の事後活動プロジェクトとして、タイグエン省の高齢者施設を訪問し、ギフトを届けると共に活動を実施。</li> <li>2020年4月、第46回参加青年が中心となり、「東南アジア青年の船」事業の応募者増加のための事業紹介を行うオンライン・イベント「SSEAYPツアー」を開催。</li> <li>2020年10月、第46回参加青年発案の事後活動プロジェクトとして、ハノイ市の児童養護施設を訪問し、ギフトを届けると共に活動を実施。</li> </ul> 

## SSEAYPインターナショナル・カンボジア図書館

SSEAYPインターナショナル・カンボジアでは、コンボンスプー州ピンポン小学校に、「SSEAYPインターナショナル・カンボジア図書館」を建設しました。この小学校の以前の図書館は、1979年に完成した木造で、雨漏りがし、いつ天井が落ちてもおかしくない危険な状態でした。そのため、雨季には使用することができなくなっていました。SSEAYPインターナショナル・カンボジアが建設した新しい図書館は、2021年1月に完成し、8.5メートル×16メートルの大きさで、小学校の教室も備えた校舎となりました。



## SSEAYPインターナショナル第32回総会 (SIGA 2022 Japan)



SSEAYPインターナショナル総会 (SIGA) は、各国事後活動組織が、より効果的な社会活動の実践を目指して研鑽を積み、意見交換を行う場として、1988年から毎年1回、SI加盟各国事後活動組織の持ち回りで開催しています。第32回総会は、2020年3月にタイでの開催が計画されていましたが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的な感染拡大を受けて、開催が延期されました。

国境を越えた移動が制限される状況が続く中においても、各国における事後活動の取組を絶え間なく継続するため、今回、第32回総会を、令和4年3月13日 (日) 14:00～18:00 (日本時間) に、オンラインで開催します。

第32回総会のテーマは、「Activate Our Future」。第28回・第36回「東南アジア青年の船」事業参加青年の吉野慶一氏 (Dari K株式会社代表取締役) による基調講演と、全国のIYEOから募集したワークショップなどの分科会を予定しています。

## 【国際的な活動】 SWYAA 各国の活動

昭和63年度（1988）に開始された「世界青年の船」事業の参加青年は令和元年度（2019）に実施された「世界青年の船」事業の参加青年を加えると、日本青年は計延べ3677人、外国青年は67か国で延べ4474人となっています。これら既参加青年たちは事業で得た貴重な体験をいかして、地域、職場、学校等において国際交流活動、青少年活動を活発に行うことが期待されているほか、日本と参加各国との間の友好親善の架け橋としての役割も期待されています。

各国の既参加青年の事後活動は、当初は基盤となる組織や資金、そして活動のノウハウが乏しく、積極的な活動展開が難しい状態でした。しかし「世界青年の船」事業が回数を重ねるとともに既参加青年の層も厚くなり、情報が蓄積されたことと、インターネットの普及も影響して、グローバル・ネットワークの確立と社会貢献活動の活発化に向けて、少しずつ前進するようになりました。寄港地、参加国共に固定されないという条件の下で、本格的な地球規模の活動を展開するための基盤の確立は難しい点もありましたが、国際連携組織の確立を目指して活動を推進した結果、SWYAA国際連盟（Ship for World Youth Alumni Association International）が設立されました。

SWYAA国際連盟は、「世界青年の船」事業、グローバルリーダー育成事業、「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」で培われた異文化理解、国際協力、国際平和の実現に向けてリーダーシップ精神を推進し、支援しています。参加国は、正式加盟28か国、準加盟7か国で、非加盟の関係国を加えると67か国の国々が連携しながら、様々な社会貢献活動を展開しています。



ロシアとバーレーンのSWYAAで共同開催されたSWY BAKE DAY

### 「世界青年の船」事業各国事後活動組織の主な活動（2020年）

国名	事後活動組織名称	活動内容
オーストラリア連邦	SWY Australia	“World Peace Day Conference”の開催
バーレーン王国	Ship for World Youth Alumni Association Bahrain	献血活動、オンラインイベント“BAKE DAY”の共同開催
カナダ	SWY Canada	オンラインイベント“SWY Virtual Weekend”の主催
コスタリカ共和国	Ship for World Youth Alumni Association Costa Rica	海岸清掃活動を実施
インド	SWYAA-INDIA	スラムエリアでのSWYAA-Open Schoolの運営、マハトマ・ガンジーのリーダーシップに関する講演
日本国	日本青年国際交流機構（IYEO）	SWY WAVE広報活動に協力
メキシコ合衆国	SWYAA Mexico	SWY32訪問国活動に協力、オンラインワークショップの開催
ペルー共和国	SWYAA-PERU	献血活動、ペルー・インドオンライン青年会議の開催
ロシア連邦	SWYAA Russia	オンラインイベント“BAKE DAY”の共同開催
英国	SWY UK Alumni Association	女性のためのオンラインワークショップ開催
アメリカ合衆国	SWYAA USA	衣類の寄付、献血活動
南アフリカ共和国	RSA AA	農村女性作成のマスク購入のための寄付・ファンドレイジング

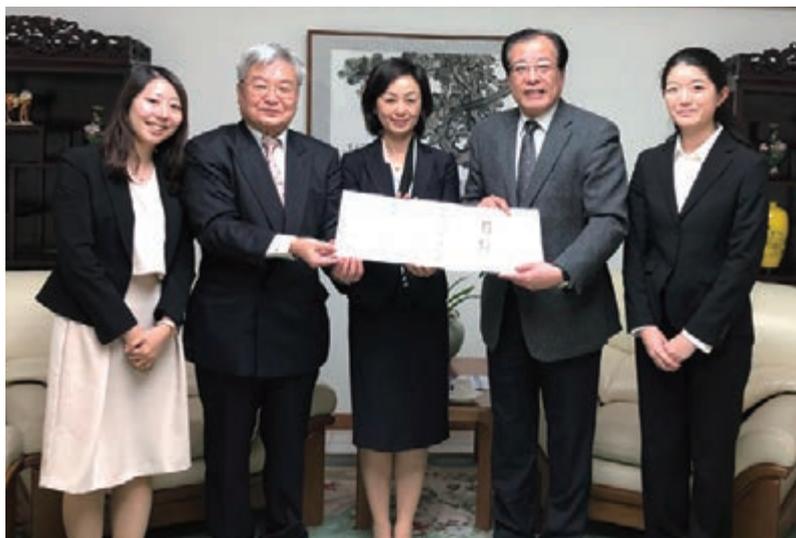
## COVID-19による被害に対する募金



倪健政治部公使参事官(右)に支援金と目録を手渡す竹林義久中国派遣団同窓会会長(左)

中華人民共和国では、2019年12月以降に湖北省武漢市で新型コロナウイルス(COVID-19)による肺炎が発生し、被害が拡大し中国各地において道路の封鎖や外出規制なども行われ、人口約1100万人の武漢市は数週間にわたって封鎖されるなど、甚大な被害が発生しました。

こうした事態において、中国派遣団同窓会より日本青年国際交流機構(IYEO)に募金活動の要請があったことを受け「日本青年国際交流機構大規模災害支援積立金に関する内規(※)」に基づき、「新型コロナウイルス(COVID-19)による被害に対する募金」のために大規模災害支援積立金の適用することを決定しました。



左より、小田玲実IYEO国際担当幹事、竹林義久中国派遣団同窓会会長、本田温子IYEO副会長、倪健政治部公使参事官、相澤彩子運営委員

2020年3月27日、中国派遣団同窓会の竹林義久会長、本田温子IYEO副会長、小田玲実IYEO国際担当幹事、中国派遣団同窓会の相澤彩子運営委員の4名が中華人民共和国駐日本国大使館を訪問し、倪健政治部公使参事官に目録と支援金をお渡ししました。倪健参事官は「日本・中国青年親善交流」事業とも関わりが深く、2019年度は事前研修及び中国青年招へいの際に講演していただいています。

## 募金へのお礼

その後、2020年5月、中華人民共和国駐日本国大使館から、「新型コロナウイルスによる被害に対する募金」のお礼としてマスクをいただきました。また、IYEOの団体会員である認定NPO法人東京都日中友好協会からもマスクをいただき、計2500枚のマスクの寄贈を受けました。

IYEO事務局では、これらのマスクを有効活用するべく協議し、中国からいただいたマスクであることもふまえ、「日本・中国青年親善交流」事業の中国青年招へいの際などに協力いただいた「社会福祉法人江東園」にすべて寄贈しました。「最前線のヘルパーさんのマスクが不足していた



マスクを受け取った江東園職員

ので、たいそう喜ばれました」と江東園の職員からお礼状が届きました。

IYEO会員の皆さまの中国への支援が、日本国内への支援に還元され、IYEOとしての中国とのつながりがいかされた結果となりました。



中国大使館から寄贈されたマスクに添付されたメッセージ「一衣帯水 同舟共済(和訳：(隣国同士)互いに手を取り合い、この困難を乗り越えましょう)」

### (※)大規模災害支援積立金とは？

「IYEO大規模災害支援積立金」は、2005年(平成17年)5月に発生したジャワ島中部沖地震の救援募金活動をしたことをきっかけに、2006年(平成18年)に制定された制度です。この制度は、IYEOと緊密な関係を有する国内外における機関、組織及び役員、会員等が、大規模な災害等によって罹災した際に、都道府県IYEOまたは各国の事後活動組織の要請を受けて、IYEOとして速やかな支援活動に取り組むことを目的として制定され、これまでに17件の実績があります。

## 中国派遣団同窓会

1979年度に始まった「日本・中国青年親善交流事業」に参加した青年により構成されています。1999年3月に京都で設立総会が開催され、IYEO内の組織として中国派遣団同窓会が発足しました。同窓会発足後、継続して活動してきましたが、円滑な活動を行うために令和元年度、会則の制定を目的とする起草委員会を立ち上げました。2020年1月に行われた中国派遣団同窓会総会で議案として提案され、承認されました。同年4月1日より会則が施行され、会長以下新役員体制での活動を行っています。

2年前の派遣団が幹事役となって年に一度の総会を開催し、中国青年の訪日時には、都内視察の同行や地方プログラムの受入などに積極的に取り組んできました。今年度は「日本・中国青年親善交流事業」のオンライン事業に協力し、ファシリテーター1名、運営サポーター5名全員が中国派遣団同窓会会員です。これにより、年度を越えた縦のつながりも強化され、中華全国青年連合会の協力も得て、中国とのかかわりも深まっています。

次回、中国派遣団同窓会総会は2022年3月6日（日）、オンライン（Zoom）にて開催される予定です。



## 日韓交流連絡会議

「日本・韓国青年親善交流事業」に参加した青年たちが、事業で得た日韓のきずなを再確認し、培った経験と国際感覚をいかし、日韓交流ネットワークを構築することを目的としています。2003年に有志が集まり、韓国ソウル市で「日本・韓国青年親善交流事業参加青年予備連絡会議」を開催し、日韓のネットワークを構築するための会議が実現可能なことを確信しました。2004年度から名称を「日韓交流連絡会議」とし、本会議ではネットワークを活用して、日韓友好や社会貢献に寄与してきました。

日韓交流連絡会議の主なプログラムは、①アクションプラン・トーク（日韓友好のための企画やアイデアを意見交換）、②レクリエーション、③開催地独自のプログラムで構成されており、日韓交流の更なる発展をめざしています。

次回、第18回「日韓交流連絡会議」は2022年3月12日（土）13時～18時、オンライン（Zoom）にて開催される予定です。



### 内閣府青年国際交流事業

くわしくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



### 内閣府青年国際交流事業 事後活動ニュース FY2020-2021

発行日：2022年2月28日

発行：内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL: 03-6257-1434 FAX: 03-3581-1609 URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人青少年国際交流推進センター（Center for International Youth Exchange）URL: <http://www.centerye.org/>

編集協力：日本青年国際交流機構 International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>